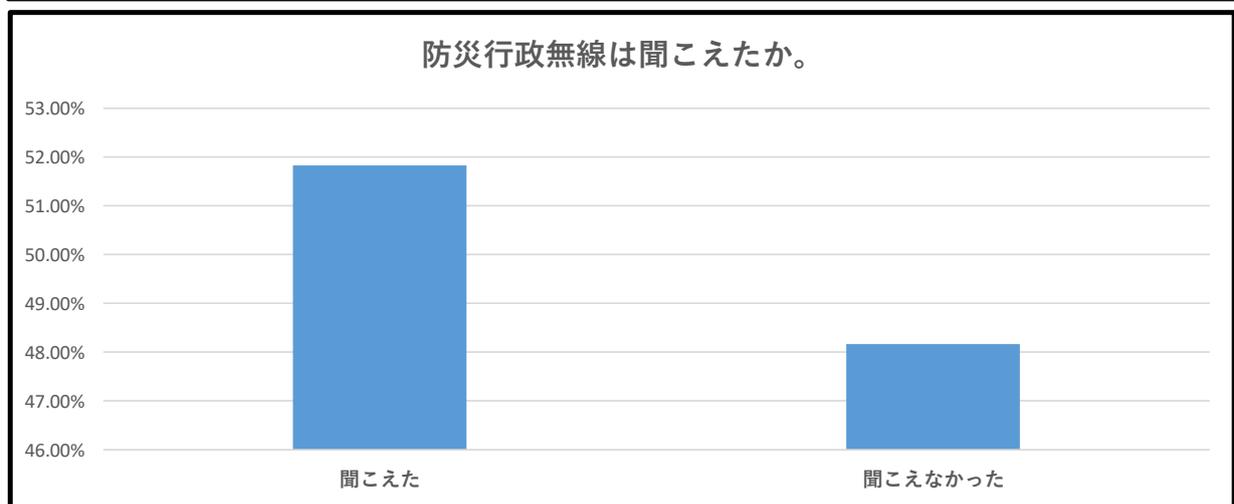
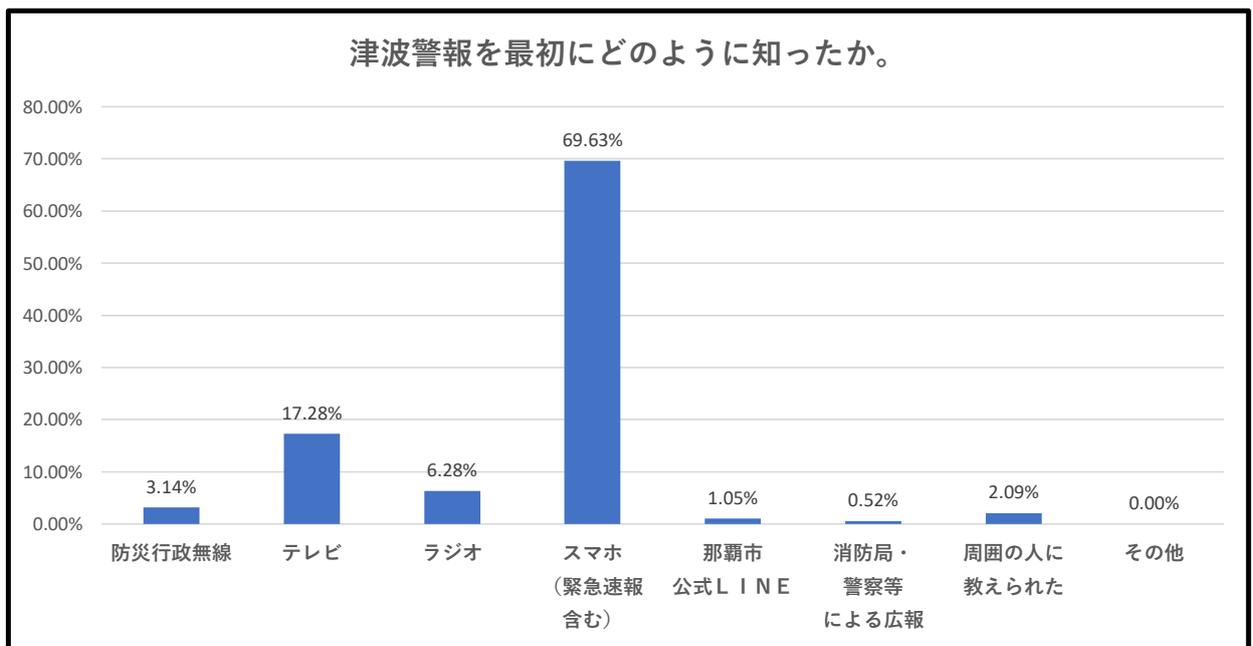
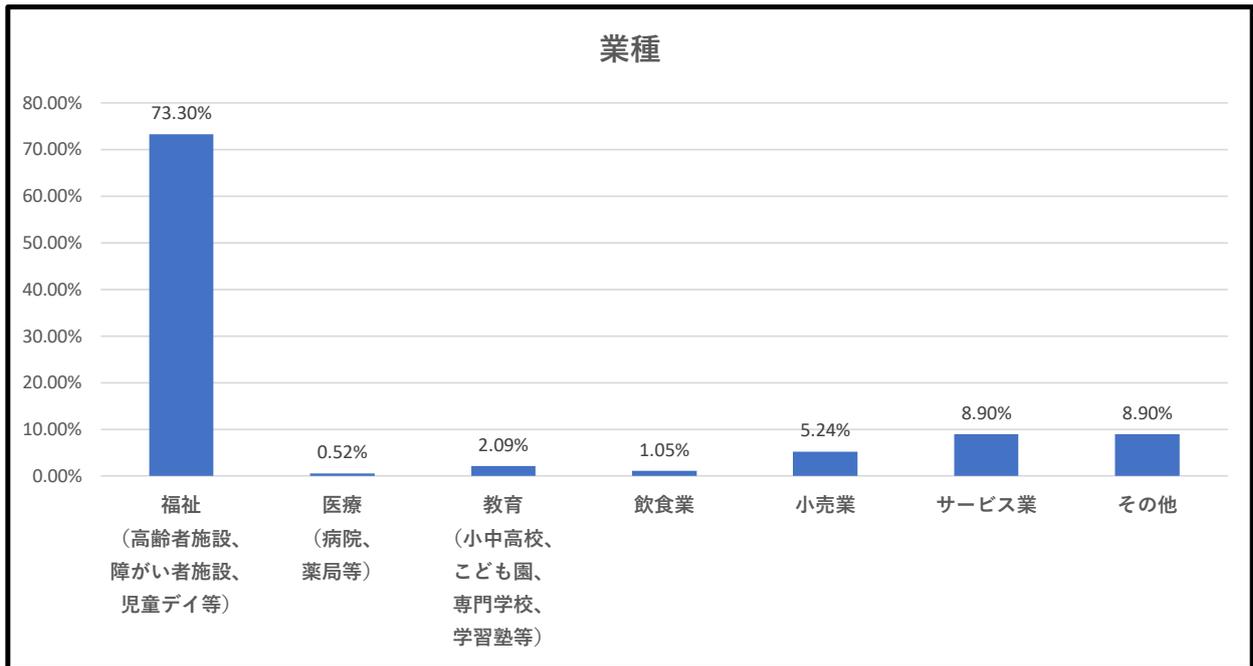
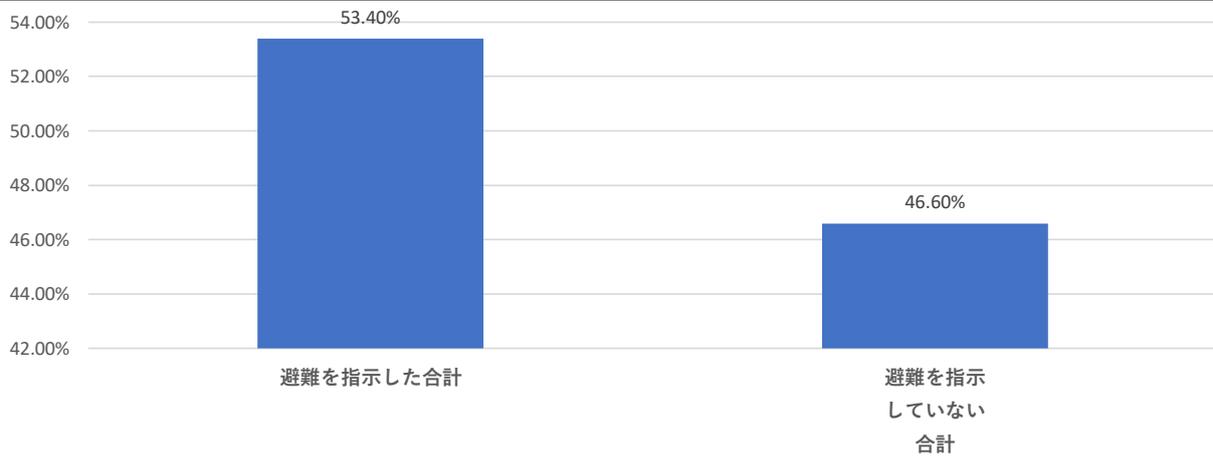
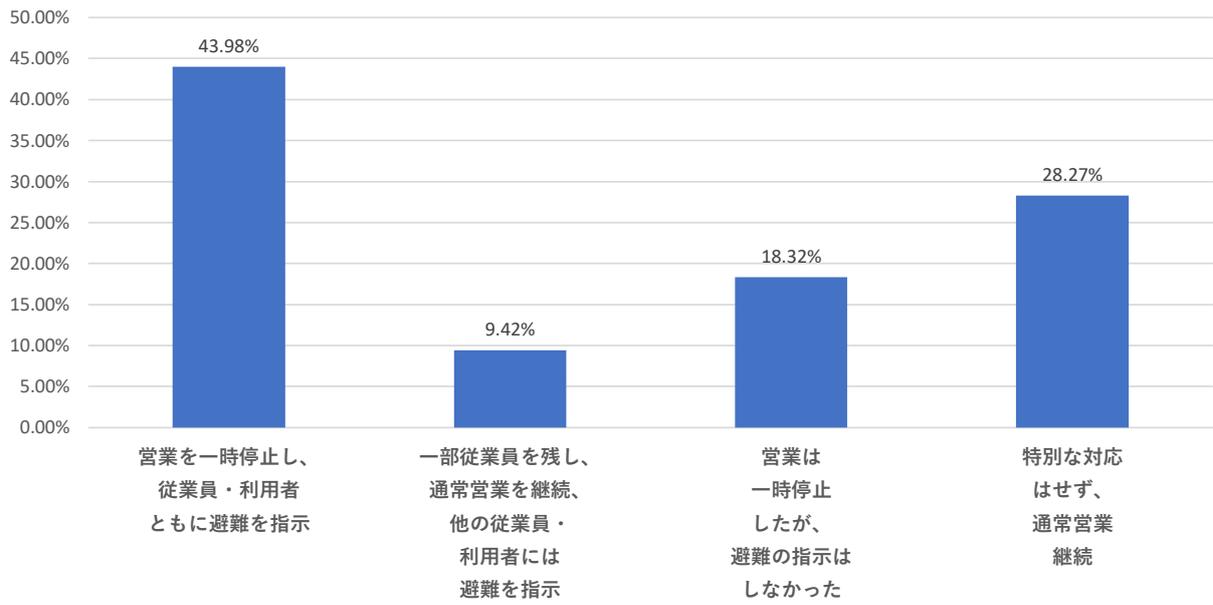


# 令和6年4月3日の津波警報に伴うアンケート調査の結果について（事業者向け）

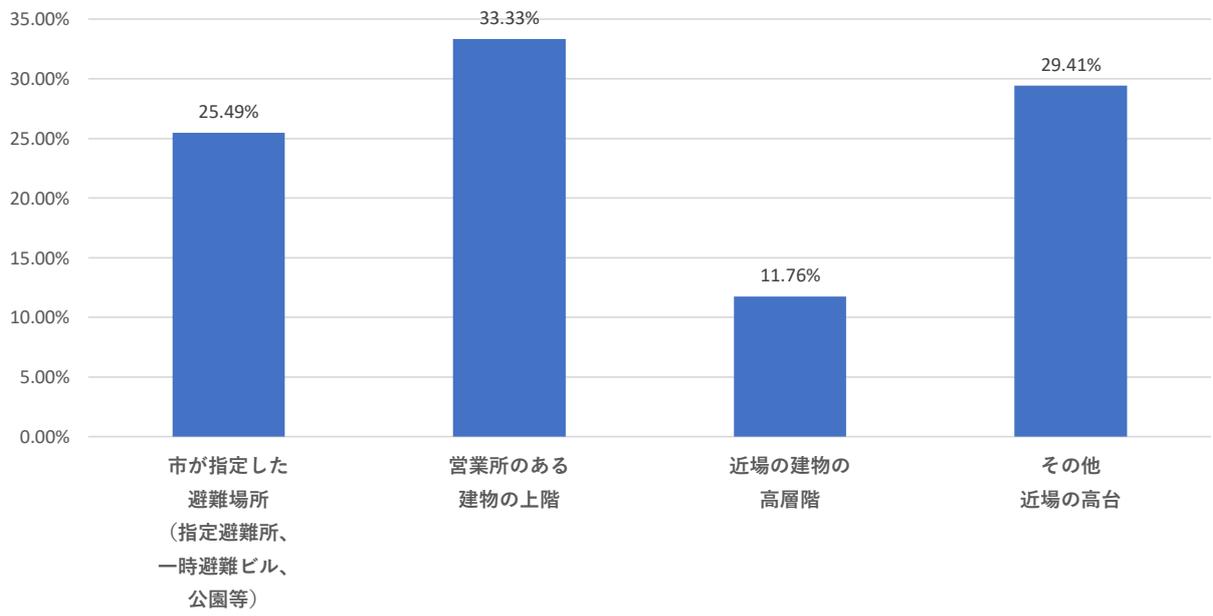
回答総数：191件 対象者：那覇市内に事業所や営業所を持つ事業者



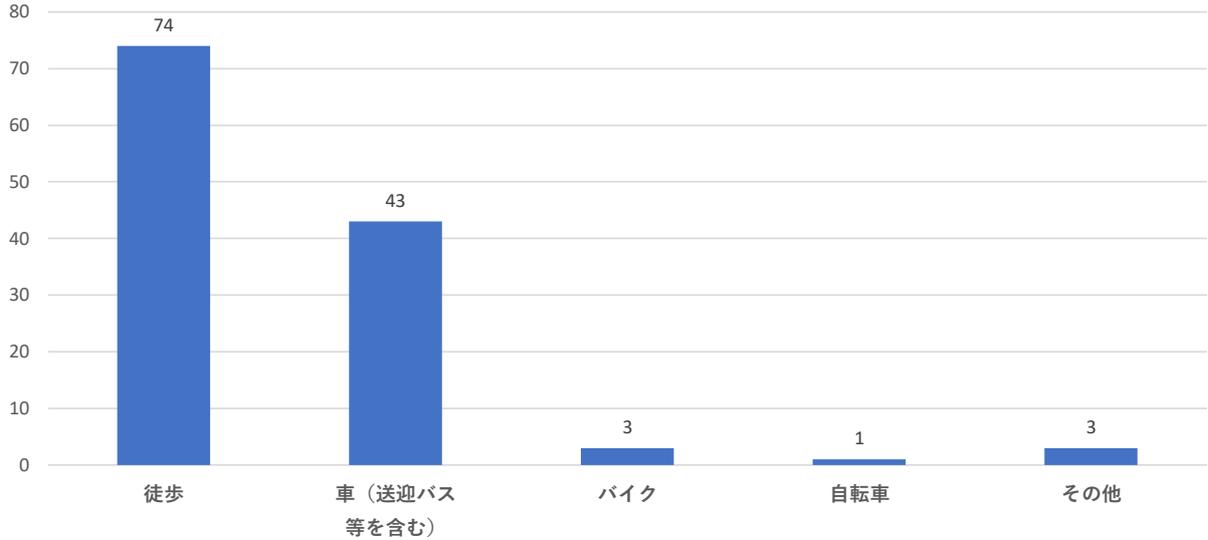
### 津波警報認識後の対応



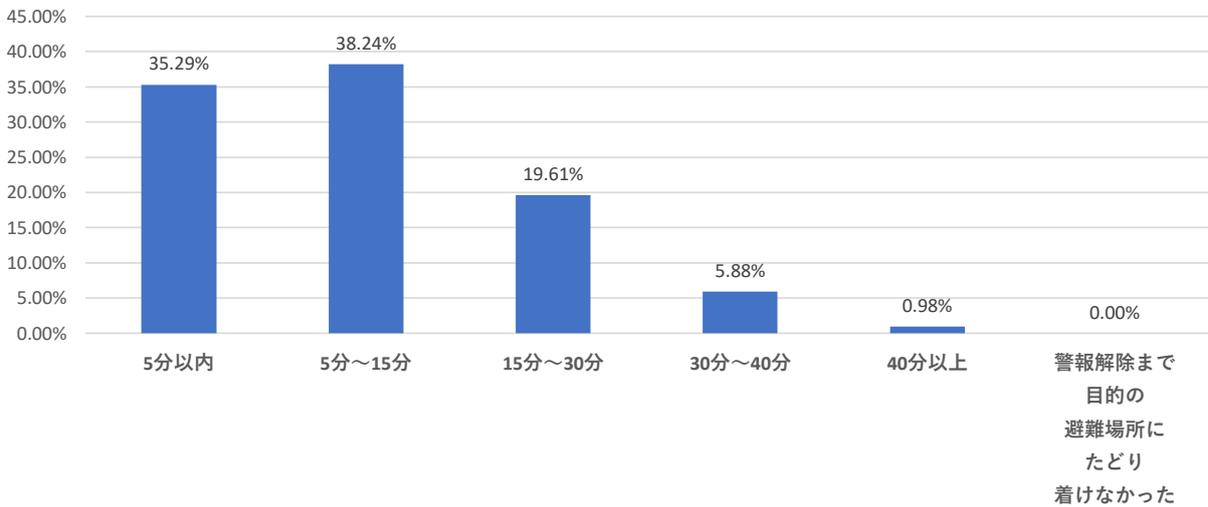
### 避難を指示した場合：どこに避難させたか



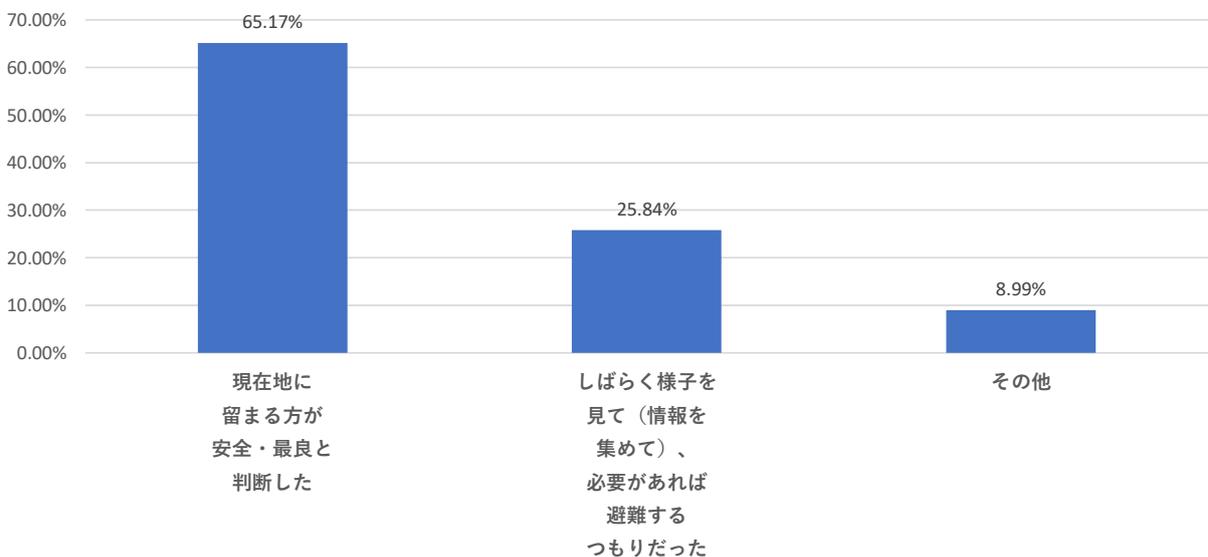
避難を指示した場合：避難場所への移動方法（複数選択可）



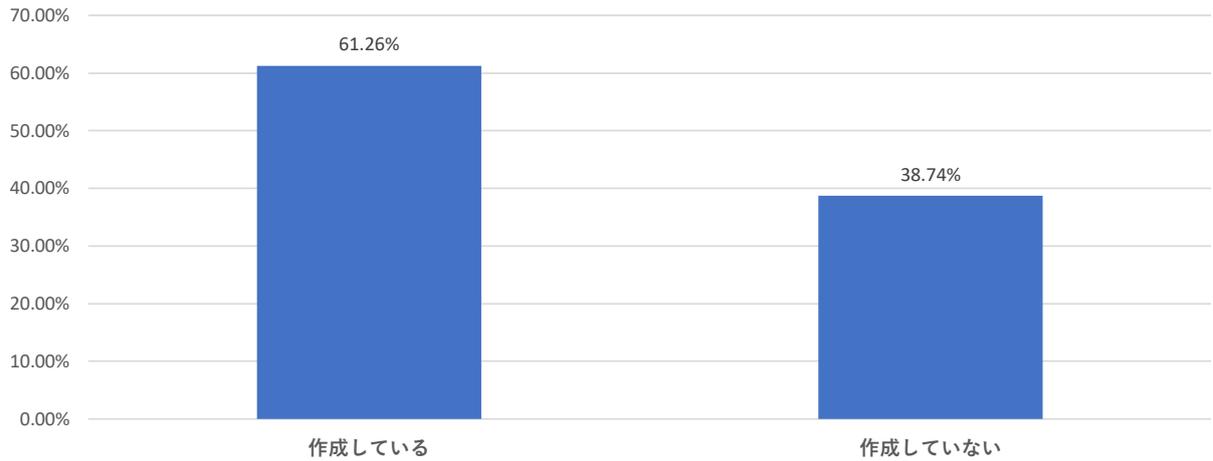
避難を指示した場合：避難に要した時間



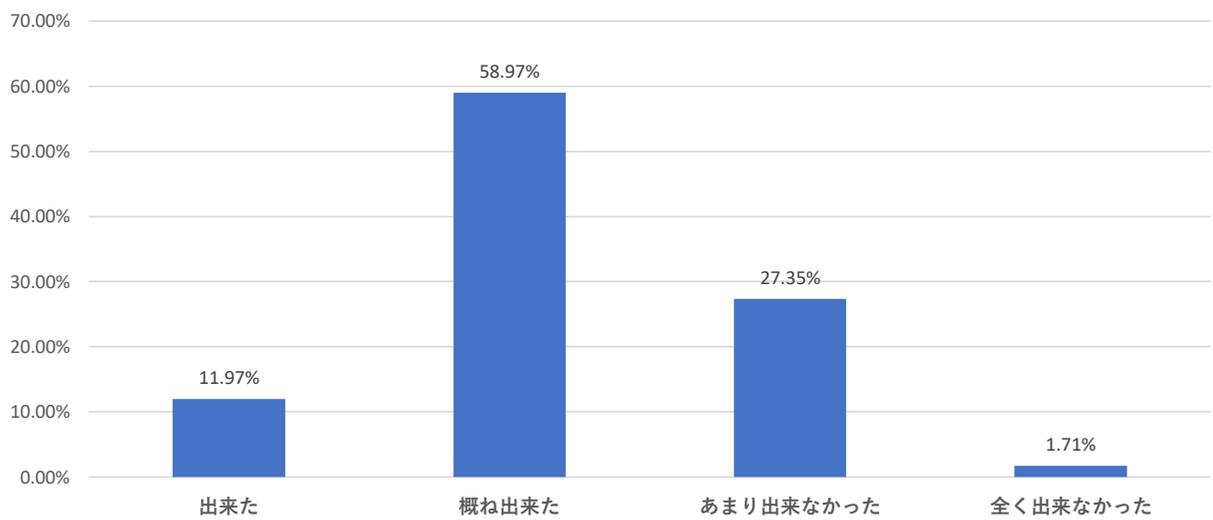
避難を指示しなかった場合：なぜ避難を指示しなかったのか



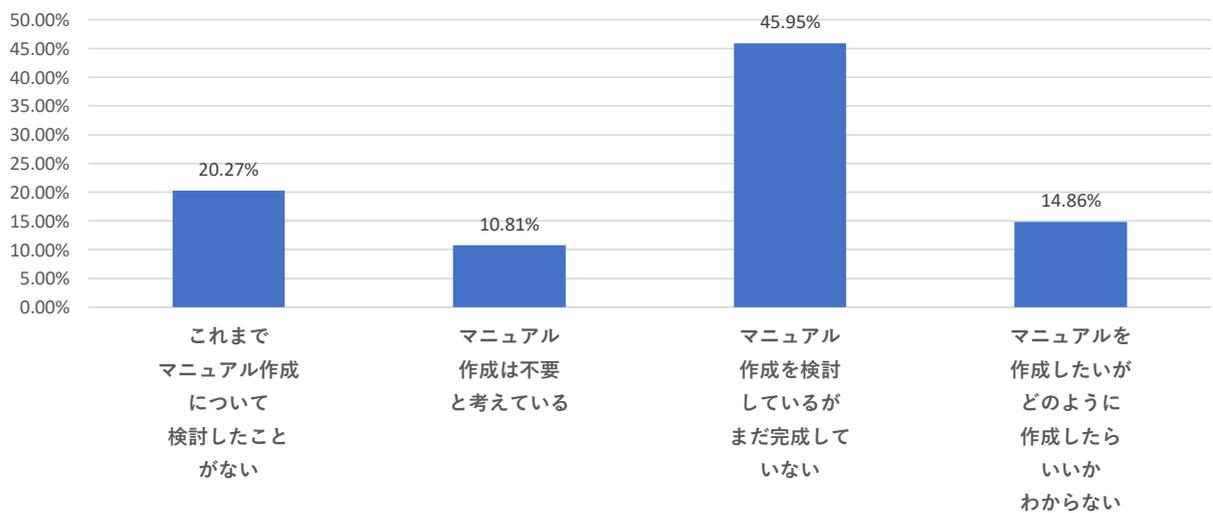
### 事業者において津波警報に対応できるマニュアル等を作成しているか



### マニュアルを作成している場合：マニュアル通りに行動できたか



### マニュアルを作成していない場合：その理由



自由記述・主なものを一部抜粋

防災無線は飛行機の音やヘリの音、緊急車両の音で何を放送しているのか聞き取れませんでした。
海岸に近い地域なので放送車両やバトカーが回ってきて、避難を促していました。近所の人も垂直避難が多く、屋上などに昇っている人がたくさんいました。
ラジオやインターネットなどで情報収集ができるので良かったです。那覇市LINE公式での発信も確認しながら行動できました。
津波に関しては、自分のいる地点の高度（海拔）を知ることにより、避難の緊急度を判断できることから、各交叉点や主要な地点には高度（海拔）の表示を、今ある以上に増やしていただきたいと考えます。
車椅子で独居の方の訪問介護で介入中なら一緒に避難できるが、介入時間外だと家族の協力が必須だと改めて感じました。
具体的に海拔何メートル以下にある事業所又は場所などは避難して等の指示があれば助かります。障害児の中には人混みが苦手な子供もいるので海拔以上の事業所だとその場所で待機の方が落ち着くため。
子どもたちがパニックにならずに避難させるにはどうしたらよいか、津波の際の避難場所をどこに設定した方が良いかなど、津波のBCPを早急に完成させる必要があると思いました。
今回BCPを作成したこともあり、指示や行動が的確に出来たと感じます。
避難場所が近い、施設が4階建てで屋上を利用できることなどは再確認できた良い機会になったと思います。
学校へ避難したが、車で避難してきた車両を運動場へどンドン入れていた為、先に避難していた子供たちが危険でした。
避難経路沿いの歩道は狭く、車の往来は激しく、路上駐車車両をよけながら安全に避難するのは、利用者と共に避難する場合はより難しくなるものと感じた。
今回の津波警報に関して、利用者間からは「大騒ぎすぎる」等の不満の声があった。
津波警報発令時は施設の送迎の時間と重なっていました。その為、①施設内にいる職員②送迎を終えて、施設に戻ってきた職員と迎えた利用者③送迎中で車中にある職員と利用者④自宅で迎えを待っている利用者4つの状況が出来たため、対応を分けました。①と②施設は避難指定場所よりも高台にあるので、避難はせず施設内に留まる事にしました。③職員に現在地を電話にて報告してもらい、送迎車が施設に近い場所まで来ている事が確認できたので通常通りの受け入れ。④電話にて連絡をとり、家族と共に自宅近くの避難場所へ非難する事を確認。災害時のマニュアルは作成していますが、今回の時間や状況によってはマニュアル通りにいかないという事を痛感させられました。しかし、作成していたからこそ個別の対応ができたのも事実です。やはり、日頃からの備えが大切だと思いました。また、今回のような状況では、万が一電話回線がパンクしたり、通信手段が使えなくなったりすると、利用者や職員の状況確認が難しくなる恐れがあるので大変心配です。
通所介護での避難は車を使う方法しかなかく渋滞などで避難できない可能性が高い。災害避難場所のほとんどは状態に区別なく避難できるが、みんな同じ場所なら避難場所に最初に着いた方から避難でき、歩行困難や介助が必要な方は避難場所へ到達できない（駐車場も満車で入れないなど）のでないか？専用の避難場所などあるとどのようなメリット・デメリットがあるのか検討が必要。避難場所から空き状況や別の避難場所の紹介などあれば助かる。全部を整えるには難しいと思いますが、自分たちでも考えるきっかけになりました。県民での情報共有などがやはり必要なので色々な情報発信をお願いしたいです。
障害者の通所施設です。津波警報が鳴った時は、ちょうど送迎中であり、いくつかのルートで送迎に出ている職員や利用者さんがいた。津波到達予報は10時であったため、その頃にはほぼ全員、事業所に集まっており、事業所が高台にあるため様子を見ることにした。利用者さんを落ち着かせる必要があったため、職員間で情報共有や情報収集をしたが、断片的な情報が多く、正確に自分たちが何をするのか判断に迷うことがあった。具体的にどこの地区は、避難等のお知らせがあると行動しやすくなると想いました。
外国人観光客に対する多言語での防災行政無線放送などの配慮が必要だと思われる。道路渋滞が予想されるので、できるだけ健常者は徒歩で避難する様にアナウンスした方が良い。
職員体制や利用者の身心の状況を勘案すると、3階建ての事業所から離れた地区指定の避難場所までの避難は困難。やはり最上階に避難するのが一番現実的と感じた。
・安全な場所（津波・浸水地域ではない）であったが、津波警報、高台への放送が鳴り響いて冷静な判断が出来ていないか不安になった。 ・保護者への連絡がLINE、ショートメール、電話と統一されていないので大変だった。 ※LINEしていない方、メールができない方
当事業所が入居しているビルは、「指定津波緊急一時避難施設」に指定されており、事業所は6階以上に入居しています。警報中には、ビル内の放送、テレビのニュースを注視しながら、施設のロビーを開放し、各所からの避難者が自由に出入りできるように対応。出勤済の従業員は通常業務を継続、出勤前の従業員には各自避難、警報の解除後、周囲の安全を確認した上で出勤するよう連絡しました。